

3 活用の基本方針等について

飛鳥宮跡活用の基本方針(案)、飛鳥宮跡の価値等について整理

1) 活用の基本方針 (案)

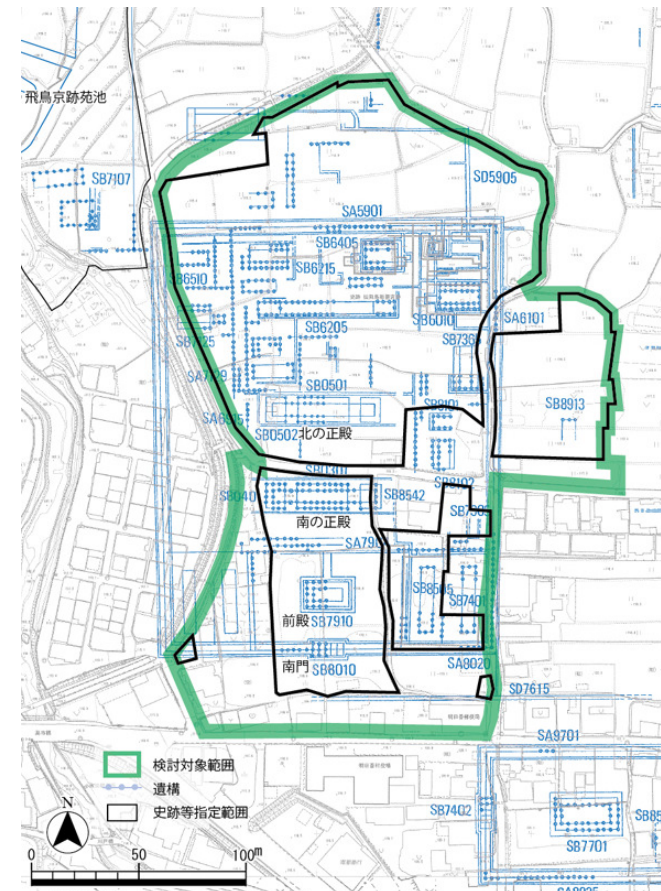
(1)活用の基本的考え方

- 飛鳥宮跡の価値を正しくわかりやすく伝え、高めるために活用する
- 明日香村の景観との調和、地下の遺跡の保存に配慮する
- 「いかに活用するか」を考え、それにふさわしい整備を検討する
- 飛鳥宮跡の活用を通じて、
 - ・日本の歴史に親しみ、より深く知るための場の提供
 - ・地域の誇りを高める取組の展開
 - ・人々の交流の促進
 に資することを旨とする

(2)検討対象の範囲

- 史跡「飛鳥宮跡」の範囲を中心とする
- 隣接する飛鳥京跡苑池との一体的な利活用を検討する
- 今後の発掘調査や公有化の進捗に合わせて、周辺部への拡大も検討する
- 景観については、より広範囲に検討する
- いわゆるソフト事業の展開においては、より広範な時代、地域も考慮する

※ 遺構の表示については、発掘調査の進んでいる最上層の第Ⅲ期-B（飛鳥浄御原宮）を主な対象とする。なお、第Ⅲ期-B以外でも、「乙巳の変」などよく知られた史実等に基づく活用を検討する。【P.32参照】



◆ 検討対象範囲：
出典：飛鳥宮跡保存活用構想検討報告書（H26.3 明日香村）
P.20に加筆

2) 飛鳥宮跡の価値について(総論)

- 飛鳥宮跡は、東アジア諸国との交流を背景に、日本列島における古代中央集権国家形成の歴史を体現する中核的遺跡である
- 推古天皇(592年)以降、持統天皇が藤原宮に遷都(694年)するまでの間、飛鳥地方に営まれた宮殿の中で、7世紀の宮が集中する区域
- 日本という国の原型が形成された「宮」が重層的に営まれ、「京」が形成される過程を物語る極めて貴重な遺跡であり、宮空間の構成を明らかにする上でも重要な遺跡である
- 考古学的調査により、遺跡の変遷が明らかとなり、特に最も新しい時期(Ⅲ期)の宮殿は、建物の配置等が詳細に判明している

【参考】各種報告書等の記述

- 世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書 (H10 奈良県他)
 - 日本の古代政治の中核
 - 律令国家の形成から確立までの過程を解明できる古代都市空間
 - 東アジア・東南アジアの諸外国との交流や技術の受容が認められる遺物
 - 国家儀礼・官僚・身分・税などの制度の完成、貨幣の鑄造開始
 - 古事記・日本書紀の編纂(開始)
 - 飛鳥文化に育まれた宮殿や庭園などが、地下に良好な遺構として存在
- 「飛鳥宮跡保存活用構想」 (H26.3 明日香村)
 - 律令制による日本という統一国家が誕生した時期のシンボリック的遺跡
- 「明日香村歴史文化基本構想」 (H27.3 明日香村)
 - 日本国はじまりの地
 - 古代、飛鳥の地に営まれた宮都の繁栄を物語る遺跡群
 - それらを取り巻く各時代を通じた人々の活動が創り出してきた歴史文化

3 活用の基本方針等について

3) 飛鳥宮跡の価値について(各論)

飛鳥宮跡の価値を、来訪者にわかりやすく伝えることで、飛鳥の魅力や歴史への理解を深め、感動や親近感を感じていただくことを目指す

- 誰（天皇）が何を行った場所か、隣接する飛鳥京跡苑池をはじめとする周辺遺跡等との関連性など、飛鳥京の全体像と宮の役割
- 地下にある「見えない遺構」の存在
- 水時計や貨幣のはじまり、歴史書の編纂など、飛鳥からはじまり、現代までつながっているもの
- 往時からほとんど変わっていないと考えられる、山並みなどの景観：万葉集に詠われた古代の風景など
- 東アジア諸国との歴史的な関わり

【参考】「飛鳥の宮からはじまったもの」

- ①「日本」「天皇」という呼称
- ②時間の概念
- ③官位制度
- ④戸籍制度と住所表示
- ⑤税制度・大道／各地からの特産品
- ⑥貨幣のはじまり／無文銀銭、富本銭
- ⑦仏教興隆
- ⑧記紀／歴史書の編纂開始
- ⑨都市計画／苑池・京の設計



◆亀形石造物



◆酒船石遺跡



◆飛鳥池工房遺跡



◆飛鳥寺西方遺跡



◆水落遺跡



◆川原寺